

# 謹賀

医療法人 啓仁会  
平成の森・川島病院

院長 坂井 誠

## 新年のご挨拶



東日本大震災  
および原発事故  
の復興もまな  
らない中での新  
年となりました。

被災された方々、関係者の方々に  
は一日も早い復興、復旧をお祈り  
いたします。当院においてはグルー  
プ施設内で被災した石巻クイナル  
病院への人員派遣が震災と直接関  
わる大きな出来事でした。看護師  
長、ケアワーカー、リハスタッフ  
を派遣し、後日報告会や看護部よ  
り活動経験に基づいた災害看護の  
院内研究発表が行われました。今  
回の貴重な経験と反省を踏まえ、  
いつまた起こるかもしれない大規模  
災害に備えてグループ内の連携、  
災害マニュアルの整備、研修訓練  
等さらに実践して参ります。

当院では来年の病院機能評価更  
新認定に向けて準備を始めると  
も、グループ内方針の電子カル  
テ化にも積極的に関わって参りま  
す。

医療法人 啓仁会  
介護老人保健施設 平成の森

施設長 井上 勇

## 年頭のご挨拶



年頭に当たり  
一言ご挨拶を申  
し上げます。昨  
年は施設利用者  
様、ご家族様始

めぐ協力をお願いいただきま  
した各施設、医療機関  
の皆様には一方ならぬ  
ご支援を賜り誠に有難  
うございました。

振り返って見ますと、  
昨年は国内外に於きま  
して誠に災多い一年で  
ありました。海外に於  
いてはアラブ諸国の支配層に対す  
る人民の蜂起、ニューヨーク、タ  
イの大洪水、ギリシャを始めとし  
たユーロ圏の財政危機、トルコに  
於ける地震被害等、枚挙に暇があ  
りません。一方国内にあっては何  
んと言っても東日本大震災であり、  
未だに復興の兆しが見えてこない  
被災者の気持ちを思う度に心を痛  
めているのが全ての国民の感情で  
あると思います。故郷の山や川、  
海、田畑から遠く離れた地に避難  
を余儀なくされている原発被災者  
をおもひばかると更に心の痛みを  
覚えて参ります。

昨年の一文字漢字には「絆」が  
選ばれました。国民一人ひとりが  
忘れかけていた一文字ではないで  
しょうか。

此度の震災被害に対しては実に  
多くの外国人兵士や沢山のボラン  
ティアが活動してくれました。私  
達人と人の繋がり、深さ、尊さ、  
有難さをこれほど迄に実感した経  
験はなかったであろうと思われま  
す。人はかくの如くでありたいと  
願うのが年の初めの所感でござい  
ます。

本年も相変わりませず平成の森  
へのご支援をいただきますようお  
願い申し上げます。

医療法人 啓仁会  
川島クリニック

院長 小鍛冶 明照



一度という未曾  
有の東日本大震  
災が勃発、更に  
人災とも思える

原発事故が起き、今尚、放射能汚  
染が拡大しており、日本中に暗い  
影をおとっております。

しかし、地震直後の恐ろしい現  
実の中での被災地の方々の冷静さ、  
悲しみの中での気高さ、助けを待  
つ間の忍耐強さや日本独自の絆の  
精神は、世界中から驚きをもって  
称賛されました。そして、それは  
打ちひしがれた国民に希望と勇  
気、自信を与えてくれた。

一方、震災後十ヶ月が経過した  
にも拘わらず、被災地の復興は、  
いまだ大変遅れが目立っています。  
本来なら各政党は直ちに一丸となっ  
て復興に全力を注ぐべきなのに、  
お互い自分たちの主張を繰り返す  
のみで、政治の著しい停滞を招き、  
復興の妨げになっております。今  
日の日本の最大のウィークポイン  
トは、確固たる信念や決断力、実  
行力をもった真の強いリーダーが  
存在しないことだと思います。

明確な復興ビジョンを打ち立て、  
大震災からの復興を創造的に成し  
遂げられれば、日本はバブル崩壊  
後の長期停滞から奇跡的に復活で  
きるきっかけになれるはずだと思  
うと大変残念です。

さて、8月にはいよいよ、第2  
サービスタワー高層向け住宅がオー  
プンします。川島クリニックは、  
今年も職員一同、一丸となって頑  
張ってまいります。

皆様のご理解、ご支援宜しくお願  
い致します。

医療法人 啓仁会  
石巻クイナル病院

院長 河村 修

新年を迎えることができありが  
たうございます。



東日本大震災  
で最も被害を被つ  
た石巻市に立地  
する石巻クイナ  
ル病院。

関係者皆様の懸命な奮闘のお陰  
で、どうにか大変な試練を乗り越  
える事が出来ました。心より感謝  
申し上げます。  
そして、地域を支え共に歩ん  
で迎える病院として、4回目の新年  
を迎えることとなりました。これ

医療法人 啓仁会  
吉祥寺南病院

院長 秋元 芳典

## 新年のご挨拶



新しい年を迎  
えました。本年  
もよろしくお願  
い申し上げます。  
どうしてこの

話題からですが、昨年の地震によ  
り被害にあわれた方には心よりお  
見舞い申し上げます。いろいろな  
面でお世話になった石巻クイナル  
病院の皆様には、当院ではあまり  
協力できず申し訳ありませんでし  
た。今後の復興と活躍をお祈り申  
し上げます。

早いもので私も当院で4回目の  
新年を迎えました。おかげさまで  
昨年は安定した状態を保ちながら  
病院運営を行うことができました。  
救急車の受け入れ台数も年間20  
00台を超え、地域の救急病院と  
しては多少機能したと考えており  
ます。しかし、急性期病院として  
は医師を含めた人員、設備等、整  
備しなければいけないことが多い  
ことも実感しております。また、  
救急の処置、手術等できないこと  
も多く周りの病院への協力要請も  
多い状態です。今後は当院にてで  
きることを少しでも多くし、前進  
できればと考えております。脳神  
経外科はほとんどの手術が可能と  
なり、脊椎の手術(頸椎、腰椎)  
も開始できるようにいたしました。  
外科、整形外科については常勤医  
の確保が必要です。

本年は少しずつでも前進できる  
ように頑張りたいと思います。今  
後ともよろしくお願ひ申し上げます。

医療法人 啓仁会  
新宿野村ビルクリニック

代表担当理事 富島 隆裕

新年明けましておめでとうございま  
す。



新宿野村ビル  
クリニックは、  
平成22年7月両  
陽会として事業  
継承し、昨年11

月より医療法人啓仁会となりました。

た。関係者の方々、並びにグルー  
プの皆様には多岐にわたりご支援  
をいただきましたこと、深く感謝  
申し上げます。

さて、昨年はご存じのとおり東  
日本大震災が起こった大変な一年  
でした。グループの石巻クイナル  
病院が直接被災しただけでなく、  
原発事故による放射線被曝関連は、  
未だ国内外問わず大きな問題です。  
我々医療者ができることは、放射  
線被曝に関する医療知識を患者様  
に正しく伝えることです。病院で  
あれ、クリニックであれ、それは  
一緒です。医療者であるからには、  
どこであつても被曝関係以外の医  
療知識も正しく伝えることは重要  
です。

しかし運営上では病院とクリニッ  
クでは大きな差異があります。新  
宿野村ビルクリニックは、患者さ  
んの立場から病院とクリニックの  
役割や存在意義の違いを考え、地  
域ニーズに合わせたクリニックづ  
くりをしていくことが、患者様に  
とって一番重要な「安心」を提供  
できることだと考えております。

また、現在そして未来にかけて  
日本の医療にとって、当クリニック  
とって最も必要なことは、医療  
は最高のサービスマスターでなく  
はない、そして医師・看護師が誰  
よりもこのことを強く認識し患者  
様と向き合わなくてはならない、  
と考えております。

医療は所詮人と人との間に存在  
します。当たり前ですが相手に対  
する思いやりつまり最高のサービ  
スなくして、医療は存在しえない  
はずで

まだまだ生まれたばかりのクリ  
ニックですが、これらの考えを基  
に一步一步歩んでまいりますので、  
温かい目で見守っていただきた  
いと考えております。

